

平成26年度

第1回八王子市環境審議会専門委員会

平成26年10月3日（金）

本庁舎議会棟4階 第6委員会室

八王子市水環境整備課

平成26年度 第1回八王子市環境審議会専門委員会出席者名簿

委員長 小泉 明

委員 浦瀬 太郎

委員 小倉 紀雄

委員 米沢 拓繁

事務局職員 水循環部長 穴井 誠二

水環境整備課長 守屋 和洋

水環境整備課主査 清水 亨

水環境整備課主任 依田 和彦

水環境整備課主事 田中 竜太郎

環境政策課主任 塩澤 紀子

平成26年度第1回環境審議会専門委員会

平成26年10月3日（金）
午前10時から11時30分まで
本庁舎議会棟4階第6委員会室

次 第

1. 水循環計画改定（素案）の審議について

午前10時00分 開会

小泉委員長

只今から水循環計画改定（素案）に係る審議のための第1回環境審議会専門委員会を開催いたします。

わたくし、専門委員会委員長を務めることとなりました小泉でございます。

それでは、専門委員会の構成、臨時委員の紹介、出欠状況、資料の確認などにつきまして事務局より発言をお願いします。

事務局（依田）

まず、専門委員会の構成ですが、お配りした次第の裏面に記載させていただきましたが、環境審議会委員から小泉委員、浦瀬委員、木下委員の3名、臨時委員として小倉委員、米沢委員の2名の合計5名の構成となっており、環境審議会会長である小泉委員が委員長となります。

また、臨時委員の選出につきましては、ご審議いただく水循環計画改定（素案）におきまして、河川流域での取組みを踏まえたご意見及び河川管理者の立場からのご意見を伺うことが重要と考え、東京農工大学名誉教授で現在、日野市環境情報センター長の小倉先生と国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の米沢調査課長をお願いしたところです。

本日の出欠状況ですが、木下委員が所要で欠席となっておりますが、事前に素案に対するご意見をいただいておりますので、あとで意見交換の際、事務局から報告させていただくのと、京浜河川事務所米沢委員は交通事情で少し遅れるとの連絡がありました。

次に、市の職員を紹介させていただきます。穴井水循環部長、守屋水環境整備課長、事務局及び水循環計画改定の実務担当の清水、田中、今説明させていただきます依田でございます。また、環境政策課で環境審議会事務局を担当している塩澤です、よろしく申し上げます。

最後に本日お配りした配布物の確認です。次第に記載してあるものを確認します。

事前配布資料としては「水循環計画改定（素案）の概要」、「八王子市水循環計画改定（素案）」です。

当日配布資料としては「補助事業による雨水浸透ます設置状況及び公共下水道接続率データ」、「湧水量測定結果」、「八王子の水辺」、「水のまちニュース（第4号まで）」、「洪水ハザードマップ（2枚）」、「市内の河川整備状況」、「湧水めぐりマップ」、「あなたの川はきれいですか？（水質マップ）」、「多摩川水流実態解明プロジェクトなどの取り組みについて」です。

また、環境政策課より「八王子市環境白書2014」を配布いたしました。

事務局からは以上です。

小泉委員長

それでは、審議に先立ちまして水循環部長より挨拶をお願いします。

事務局（穴井部長）

本日はお忙しいところ専門委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

八王子市水循環計画は平成21年度に策定いたしました。

そのときも専門委員として小泉先生を始め、環境審議会の委員の皆様方にお世話になり策定をいたしました。

それからすでに5年目を迎えているわけですが、この間、八王子市の水の状況ということでは、環境省で公表した全国の河川水質改善率のトップ3に入りまして、下水道の整備とともに市民の生活排水対策への取組みとあいまって八王子市が誇れる川の水質になったと思います。

また、市民との協働という点では、湧水めぐりの実施や水辺の水護り制度を市民活動支援の施策として立ち上げ、これまで取組んできました。

八王子もまだ水に関しては、河川の水量復活の問題や湧水という八王子の貴重な資源をどう活かしていくかというようなこと、あるいは八王子市のシンボルと言える浅川をもっと魅力あるものにしていきたいというような課題が山積しております。

国におきましては水循環基本法や雨水利用推進法が施行され、水について非常に力を入れておりますので、こういったものを背景に、今回は中間見直しとして専門委員の皆様にご議論、幅広い知見をいただければと思います。よろしくをお願いします。

小泉委員長

ありがとうございました。それでは、次第に沿って審議に入ります。

次第の1、水循環計画改定（素案）につきましては事前に資料配布されていますが、概要を事務局から説明してください。

事務局（清水）

説明の前に只今米沢委員がお見えになりましたので、ご紹介させていただきます。

米沢委員

遅くなり申し訳ありません。京浜河川事務所調査課長の米沢です。よろしく
お願いします。

事務局（清水）

それでは概要を説明します。改定（素案）の内容につきましては、9月12
日の環境審議会水環境整備課長から説明させていただいたところです。

目次に沿って説明させていただきます。

序章、第1章、第2章、第3章となっております。水循環のこと、現状と
課題、将来像、健全な水循環系再生の基本方針と4つの章で前段がありまして、
第3章のところで第4章以降の取組みの概要を記載しています。

第4章のところで健全な水循環系再生の5つの行動の推進ということで、「雨
水を浸透させる」、「きれいな水を川に戻す」、「生きものの棲む水辺を育てる」、
「水を上手に使う」、「水を治める」という5つの項目で市民と協働で行動する
という構成になっております。

第5章のところでライフラインの整備として水道、下水道、し尿処理の北
野衛生処理センターとなっております。

水道につきましては当初計画を作った時は一部八王子市が行っていましたが、
今は東京都水道局がすべて行っている状況です。

第6章として「身近な水辺の復活10年プロジェクト」として八王子水のま
ちづくりモデル事業で、5つの行動をトータルに行いながら水循環の改善を
図るという趣旨でプロジェクトを作っています。

今回の改定の趣旨である「湧水ネックレス構想の全体計画」、「浅川の水辺活
用と水量確保」というポイントがここに記載されており、従前からある「丘陵
地の湧水復活」、「谷戸の保全と回復」を合わせて4つのプロジェクトで今回構
成しています。

第7章は「着実な計画推進のために」ということで、体制、プロセス、実施
スケジュール、モニタリングと効果検証という4つの項目になっています。

素案の77ページですが、ここから「身近な水辺の復活10年プロジェクト」
となっております。78ページにあります。4つのプロジェクトの概略スケジュー
ルが載っています。

88ページからは「浅川の水辺活用と水量確保」ということで今回5つの拠
点の内3つで着手をしていきたいということです。それぞれの拠点の概要が9
1～93ページに記載してあります。

94ページでは流域での取組みとして日野市と連携で写真コンクール、シン
ポジウムなど行ってきましたが、共同提言をしておりこれを踏まえて取組んで
いこうということで、連携事業、水量確保ということで整理をしています。

95ページの真ん中に、長沼橋で約400m³/年となっていますがこれはm³/日の間違いです。これは、水流実態解明プロジェクトということで後程、米沢委員からご説明いただきますが、その中でシミュレーションしていただきこのような結果になったということで記載しています。

それから、110ページ以降にデータ資料を載せています。八王子市の地形、雨量、森林、水質、水量、湧水、浅川に生息する生きもの、平成20年8月末の豪雨の状況、上下水道の状況、地下水の規制、人口、土地利用、水収支等です。水収支の図面で、一部平成18年度のものがありますが、平成24年度に差し替える予定です。

今日、配布した資料の補助事業の雨水浸透の部分と強化地区の設定状況ですが、平成17年度から雨水浸透を補助事業で行っており、1,657基を今まで設置しています。強化地区としては叶谷榎池湧水、六本杉公園湧水、横川弁天池湧水の3つの地区に強化地区を設定して、市設置型で浸透施設を設置してきた経過があります。

下水道の接続率ですが、平成25年度末で97.5%になっています。水循環計画年度の前半で接続率の上昇が早くなっているのは、補助事業を設定して接続促進を強化してきた結果です。その中で浸透施設の設置も進めてきましたので平成20～23年度がかなり多く設置されている状況です。

湧水量の測定ですが、浸透施設を設置した後どうなのか、どう解析していけばいいのかを検討中です。現在は4箇所で湧水量を測定していますが、これを増やしてモニタリングをしていければと考えています。

八王子の水辺ですが、すこやかさ調査ということで環境省が提案したものを八王子版にアレンジして河川を五感による評価をしたもので、これを市民と一緒にやってきたことを整理し配布しました。

水のまちニュースを第4号まで発行しており、それぞれプロジェクト等の実績を掲載しています。

創刊号では市長のあいさつ文があり、谷戸の保全ということで川口町のため池の整備をした時の様子や浅川連携事業の様子、里川づくり事業として水辺の水護り制度を作っていますが、浅川橋下流の清掃活動をしていただいている元横山第5自治会の活動を紹介しています。

第2号では水槽展示の様子、水護り制度として、泉町湧水水路での活動を紹介しています。

第3号では湧水ネックレス構想のひとつである叶谷榎池の整備を進めている紹介や台町の水路清掃に取り組んでいる団体の紹介をしています。

第4号では叶谷榎池の整備完了、六本杉公園の整備完了の報告や東中野で水路清掃に取り組むご夫婦を紹介しています。

ハザードマップですが、市内4地区で整備をして合計2枚の裏表で作成しています。京浜河川事務所と東京都の浸水想定区域図から起こしてハザードマップを作成し、市民に啓発しています。

市内の河川整備状況ですが、東京都の管理する河川の実績です。京浜河川事務所の実績は後程紹介していただければと思います。東京都の河川の整備状況は下に記載していますが66.75%が平成25年3月末の整備率になっています。

湧水めぐりマップについてですが、これは大学コンソーシアムの中で学生から市長への提案の中で多摩美術大学の渡部研究室が提案した湧水ネックレス構想、ミュージアム構想を形にしたものとして作成しました。これを基に、水循環計画の湧水ネックレス構想を実現して行こうという形になっています。

その他、水質マップ、水流実態解明プロジェクトについてはそれぞれ小倉先生、京浜河川事務所からの提供資料となっております。

簡単ですが以上で説明を終了します。

小泉委員長

ありがとうございました。

只今事務局から説明がありました。ご質問、ご意見は後程伺います。

それでは、臨時委員としてご出席いただいている2名の方からご発言をお願いします。

最初に、小倉先生から、浅川流域の視点からのご意見をいただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

小倉委員

小倉でございます。簡単な自己紹介、浅川とのかかわり、全体の感想を述べさせていただきます。個別の問題はまた討議の中で触れたいと思えます。

私は日野市民です。浅川のすぐそばに住んでいて浅川流域市民の一人です。浅川流域市民フォーラム、これは浅川の環境を保全する目的で作られた市民グループでこれに属しており、八王子、日野市民と一緒に市民の立場からいろいろな環境への取組みを行っています。

水循環計画が平成21年に策定されるにあたり、平成21年6月に浅川流域市民フォーラムで意見書、提案書を提出しました。

主な点は6点です。1点目は、水循環の流域で考えてくださいということです。2点目は、それぞれの河川管理者は自然環境に配慮した工事を行ってほしい。3点目は、北野処理場の排水を八王子水再生センターに編入する計画によって浅川の水量不足が起こるので、その課題について検討してほしい。4点目

は、川は流域で考えて浅川について八王子市と日野市で清流条例を制定してほしい。5点目は、生物の棲みやすい環境の保全に考慮してほしい。6点目は、湧水及び湧水地の保全をお願いしたい。以上の6点の要望を提出しました。

これらの意見は、今回の改定素案にかなり反映されています。特に、浅川の水量確保、随所に表記されたモニタリングの実施など具体的に書かれていて大変結構な素案になっています。

ただ、計画が多岐にわたっており、多くのことが記載されているので、短期的にすぐやるべきこと、森林の保全のように長期的に取り組む計画もあると思いますので、計画にメリハリをつけて実施をめざしていただきたいというのが感想です。以上です。

小泉委員長

ありがとうございました。

続きまして京浜河川事務所の米沢調査課長より、多摩川流域実態解明プロジェクトの取組みや浅川の整備状況などを説明していただき、今回の計画素案に対するご意見をお願いします。

米沢委員

改めまして京浜河川事務所調査課長の米沢です。

京浜河川事務所というのはご存じかと思いますが、多摩川や八王子市役所前から下流の浅川、その区間の河川管理を担っている行政機関であり、調査課長としていろいろな調査を進めております。

多摩川の河川整備に関しては多摩川水系河川整備計画という河川法に基づいた計画に沿って整備を行っております。その計画の中で、多摩川水流実態解明プロジェクトが位置付けられています。このプロジェクトは、今回改定を予定されている水循環計画と密接に関連しています。

このプロジェクトの目的は、多摩川水系の水循環を調査して、多摩川水系のふさわしい水量水質をあきらかにするとともに豊かで清らかな流れを目指して、関係機関や流域の住民の方と考え行動していくことを目的としており、内容も多岐にわたりますが、平成13年の河川整備計画の策定の際、位置付けを行いまして1ページ目の青い部分を進めているところです。

多摩川全体の話で言いますと、多摩川の流域図がありまして多摩川上流域は森林が多く、下流域は市街地が多く、さまざまな流域をもって多摩川は流れており、それぞれの流域で特徴を持っていて、まずは多摩川流域の水量の実態を把握し、その上で流域単位で課題の共通認識を図り水量の目標設定を行い具体的に動いていこうという構想です。

具体的には、平成19年3月に水流実態解明プロジェクトの行動指針・計画を策定し、また平成23年7月には具体的行動計画を策定し、流域の行政機関とも連携しながら取組みを進めているところです。

行動指針・計画では、現状を知り調べる行動と現状を良くする行動という大きくは2つのくくりがありますが、そのくくりの中で9つのアクションと41の施策を掲げています。

重点施策として、支川や湧水の水量確保対策、森林の保全対策を進めていくこととしています。そのため、多摩川流域の行政機関で構成する、流域協議会、流域懇談会、流域委員会というさまざまな組織でそれぞれ確認を行いながら流域全体で取組みを進めているプロジェクトです。

平成19年に策定した行動指針・計画の実施状況は、図を見ていただくとわかりますが、特に現状を良くする取組みは増加傾向にあるということを示しています。

雨水浸透施設の設置状況ですが、平成27年を目標として取り組んでいます。八王子市、国分寺市が達成し、その他の流域自治体も達成しつつある状況です。

水循環に関するモデルとしては、昨年度八王子市内で試算した結果をつけています。2012年までに設置した雨水浸透施設による浅川の低水流量と地下水への効果を試算した結果ですが、河川の水量回復という観点でみると長沼橋地点の低水流量が日量390 m³増加する試算であり、地下水の回復状況も地図の着色部分で何らかの形で上昇しているのではないかと試算が出ている状況です。

平成17年から八王子市で雨水浸透施設の実施を行っていただいていたが、それを継続していけば長沼橋地点での低水流量はさらに上昇するという試算状況です。

次に、浅川の整備状況ですが、洪水時流れが速いということもあり、過去にも浸食被害が頻発していることから、これまで水衝部対策を主に実施し、平成25年度末で88%、八王子市内では98%の整備率です。これはあくまで水衝部対策としての数字で、これ以外の堤防自体の高さや幅などの整備がありますが、優先的に進めてきた水衝部についてはこのような状況です。単にコンクリートで固めるのではなく、地下水、湧水を護岸で遮断しないような透過性のあるブロックを活用しています。

八王子市役所の下流部分で昨年度工事を実施した状況ですが、コンクリートの護岸にはなっていますが隙間を持たせてそこから湧水が出てくるような構造にしています。

水循環計画改定の全体的な感想についてですが、小倉先生からもご意見ありましたがモニタリングに関する部分が記載されたということで具体的行動を進

めて行くには重要と思います。水流実態解明プロジェクトと密接に関連することから、連携しながら取組みを進めていただきたいと思います。以上です。

小泉委員長

ありがとうございました。

それでは、これまでの内容につきましてご質問、ご意見等ありましたら発言をお願いします。

小倉委員

京浜河川事務所の取組みで、モデルによる検証で日量390tの増加というのはたいへんうれしいニュースなのですが、これを実測で検証するのはなかなか難しい、それがなんとかできないでしょうか。

小金井市でも日本一の設置率ですが、目の前の湧水の水量が増えたとか野川の水量が増えたというデータは実証されていないと思う。雨水浸透施設の効果を実証するような方法を、八王子市と協力するなり市民も一緒になってモニタリングしていくことを大変期待しているところです。

米沢委員

シミュレーションでないと検証できない状況ですが、これまでやってきたデータとつぶさに比較して検証していきたいと思っています。どういうやり方があるのかは八王子市と連携してモニタリングしていきたいと思っています。

浦瀬委員

効果のモニタリングとしていうと、湧水の水量は八王子市が測定しているようですが、地下水位についてのモニタリングはあるのでしょうか。

湧水量でもある程度わかると思います。地下水位が経年で1m位の変動はあると思いますが、測定されていればもっと良いと思います。

事務局（守屋課長）

下水道課で長寿命化計画の策定の中で下水道管への侵入水を止めるよう取り組んでいます。浅川沿いに京浜河川事務所が設置した地下水位の観測井戸で1年程前から毎月水位を測定したデータが2～3か所あり、それが使えるのではと考えています。

浦瀬委員

温暖化対策ではないが、ヒートアイランドというか熱管理と水環境の関係と

いう視点はないように見受けられますが、八王子は暑いところという印象はありますし、どこかに書き加えられてもいいのかなと思います。

具体的なプロジェクトに結び付くかどうかわかりませんが、湧水の周りというのもそうでしょうし、市街地でちょっと気候を緩和するような何か、舗装の仕方もあるようですし、熱環境と水環境との関係の視点があってもよいのではないかと思いました。

小泉委員長

八王子は昼間暑く夜は冷え込むということで温度差がかなりある内陸性気候の特徴があると思いますので、いまのような話は大事かなと私も思います。

先ほどの長沼橋の低水流量への効果として計画にも400m³という数値が出てきますが、参考ということでカッコ書きぐらいにしておいた方が、確証できない数値になると思いますので、記載のしかたを工夫した方が良いかと思います。

他にも数値がたくさん出てきますが、根拠の説明が難しい数値は書かない方が良いかと思います。世の中全体としては、数値化を望む傾向がありますが、水循環については検証が難しいものもありますので、よく検討していただきたいと思います。

他にもご意見がありましたら発言をお願いします。

小倉委員

湧水のモニタリング結果を配っていただきましたが、これは非常に重要で、いま4か所でしょうか、これをもっと増やして、八王子市の湧水は本文に87か所とありますが、その総湧水量が出ると効果検証において参考になります。

日野市では125か所で年1回、今年は冬季にやったのですが、その総量が5,430t、5年前までは年2回やっていたのですが、5年前の冬季のデータと比較すると湧水量が44%減少している。そういうことが判ります。年間の総湧水量を出して傾向を把握すれば対策にもつながると思います。

小泉委員長

この測定には経費がかかるのでしょうか。

事務局（穴井部長）

現在、水再生課の職員が測定していますので、全体87か所の測定の対応は難しい。小倉先生からあったように市民参加で行っていただければと思いますが、測定精度の確保も必要と考えています。

全体という検討はなかったので検討したいと思います。

米沢委員

流域で同じ時間に一斉の流量調査をやっていききたい。かつてやったことがあるのですが、その後調査が途切れてしまっているのです、市民のご協力も得ながら流域で一斉に調査することを検討したいと思います。

事務局（穴井部長）

モニタリングについては環境市民会議の市民の方から素案に対してのご意見をいただいておりますが、モニタリングをしっかりとってほしいという意見がかなり出ていて、市民が実感できるモニタリングということが課題かと、専門的な部分と市民参加の部分を合わせていききたいと思います。

小倉委員

水質の市民参加の測定結果を配付していただきましたが、一斉にやって表示していくと対策にも結び付くものと思います。

水質は簡単に測れますが、水量ができれば興味があります。水質は改善されてきたので、これからは水量が一番の課題かなと思います。

水辺の環境、景観も含めて総合的に評価したいので、水量は重要な要素であると考えています。

小泉委員長

水質は同時測定ですか、これだけの箇所数は分担が必要だと思います。

小倉委員

分担してマニュアルを作成して行っています。同じ場所で3回測定して中央値を採用する精度管理も行っています。

これは浅川ですが、全国調査で全国区マップもできています。

水量測定もマニュアルの作成は大変だと思いますが、講習などを行えば可能だと思います。やれば面白い結果になると思います。

小泉委員長

ありがとうございます。他にご意見ありましたらお願いします。

事務局（清水）

今日ご欠席の木下先生から事前にご意見を伺っておりますので、ご報告させ

ていただきます。3点ご意見をいただきました。

1点目は湧水ネックレス構想についてですが、8つの湧水にこだわらずに市内全域の湧水や流域の湧水地を掘り起こしてネットワークすることを考えたかどうかということです。

2点目は森林の取組みについてですが、八王子の特徴や面白さを表しているということから、所管で連携を作って市の取組みとして行っていくべきである。土砂災害や洪水から守るという取組みと保全活動を楽しむという取組みがあるということです。

3点目は外来種対策ですけれども、実態調査によって種類や分布状況などを把握し地域の在来種などへの影響を考察して、必要であれば駆除していくことです。

以上3点を整理して記載すれば良いのではないかと意見をいただきました。

小泉委員長

ありがとうございました。

今回の改定は主として第六章の「湧水ネックレス構想と水のまちづくり」、「浅川の水辺活用と水量確保」部分ということです。

この2つの項目について、ご意見ありましたら発言をお願いします。

私も湧水ネックレス構想はまだ歩いてないので是非歩いてみたいと思います。

小倉委員

95ページの浅川の水量確保の項目で、合流地区での湧水の復活、管渠への浸入水抑制については既に始めているのでしょうか。

先ほどメリハリをつけて取組めるようにという発言をしましたが、既に実現しつつある対策で、これも浅川の水量を増やす大きな策になるかと思います。

しかもきれいな水が入ってくるわけですから大変結構な対策だと思います。

それと、森林の循環という言葉ですが、炭素循環ということでしょうか。地球化学ではあまり使わないのでちょっと気になります。

事務局（穴井部長）

合流地区の湧水の活用ですが、元本郷町の下水道へ流入する湧水については、京浜河川事務所の護岸工事と連携して進めているところです。

もうひとつは明神町の子安神社の湧水ですが、現在は下水道に入ってしまう活用されていないもので、これについての事業化はまだですが、このふたつは進めていきたいと考えています。

合流地区の長寿命化については調査をして、今年度に工事を始めているとこ

ろです。これによる不明水対策について平成29年度までに行い、結果を平成30年度に出していきたいということで進めていきます。

全国的にはその効果は不明な部分も多いと言われていますが、目標としてしっかりやっていきたいと思います。

事務局（清水）

森林の循環については、東京都の森づくり推進プランで取り上げているところで、植林、保育、伐採、利用という循環としてそのイメージを25ページに掲載しています。同じ循環という単語を使用していますので、注釈を入れるなど工夫します。

米沢委員

浅川の水辺活用における拠点の整備で、今回初めての取組みなのかなと思います。

北野の衛生施設跡地の有効活用で、川沿いにまとまった土地がない中で防災機能や環境学習機能を含めた複合的な機能についてうまく活用してほしい。

河川整備計画においても地域の防災力の向上ということで、多摩川には何か所か構想がありますが、浅川でいうと八王子市内では防災の拠点構想がないのです。

この取組みについて河川管理者としても関心がありますので、今後詰めていきたいと思います。

それと、92ページの市役所前の拠点ですが、河川敷も含めて立体的に活用していきたいということだと思いますが、浅川は洪水時流れが速いので活用するのに配慮が必要です。平成23年に河川の占用許可準則が一部改訂され、公的機関だけではなく、一定の条件で商業利用も可能となっているので、うまく活用してほしいと思います。

また、水量確保ですが、これらの取組みを着実に進めることが重要で、維持管理の観点も重要な要素であることから、そのことも考えていただきたいです。

小倉委員

113ページの森林の樹種の件で、主伐のあとは花粉の少ないスギを植えると聞いていますが、広葉樹に変えることで保水力が回復し、水質が良好になるとの五日市での取組みもあります。東京都の政策もあると思いますが、一部試験区を設けても良いので広葉樹に変えるとどうなるかということもやってみても良いと思います。

伐採すると硝酸が増えるとか水質が悪化するということも言われていますが、

広葉樹に転換するとどうなるかということについてははっきりとしたデータはないと思います。八王子でその検証ができると良いと思いました。

小泉委員長

小河内ダムの上流域の水源林で100年構想の広葉樹にいろいろな樹種の広葉樹を植えていく取組みを聞いたことがあります。その効果を定量的にできれば良いと思います。

スギは戦後の林業において効率性を求めてのことでしょうが、どういう森にしたらよいかということは非常に大事なテーマだと思います。

できる範囲でご検討願います。

浦瀬委員

浅川の低水流量がいくらで、そのうち北野処理場の廃止でどの程度影響があるのかということは記述がないようですが、何か支障があるのでしょうか。

事務局（清水）

長沼橋での連続測定のモニタリングがないため流況がつかれないのが実情で、京浜河川事務所が高幡橋で測定しているので、そのデータをどう評価していくかを検討しています。

現在、承知している流量としては、環境基準点で測定している長沼橋での流量は日量20万t程度で、北野からの放流は日量5万tから6万t程度です。

低水流量となるともっと少なくなると思います。

小倉委員

北野処理場の環境報告書で過去に計算したデータで、年間で北野処理場の放流量は高幡橋で浅川の流量の17%程度、ただし低水流量で比較するとほとんど処理場の水になってしまう。

長沼橋の流量で比較すると20%位でした。

浦瀬委員

20%程度であれば影響は大きくないと思われませんが、低水流量で比較すると大きな割合になるということですが、支障がなければそのへんの内容を記述した方が良いと思います。

事務局（清水）

検討します。

小泉委員長

95ページにもありますが、長沼橋付近で1万tの水量確保を目指しますという記述ですが、目指すということだから良いかもしれないですが、計画ですから数値を出す必要はないと思っていますので、できれば数値は削除した方が良いと思っています。

記述において効果が日量約400tとありますが、参考としてのものであれば良いと思いますが、確証のない数値は書かないほうが良いです。

どうしても記述しなければならぬのであればしかたないと思いますが。

浦瀬委員

130ページの水収支の図は浅川だけでなく市内全域ということですか。

事務局（清水）

そうです。

小泉委員長

専門委員会の回数が限られており、短期間での審議で申し訳ありませんが、全体を通じましてご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

小倉委員

日野市民のグループとの意見交換では概ね問題はなくたいへん良くやっているという評価でしたが、八王子市民の意見としては、環境市民会議への説明はたびたびされて、最終的にはパブリックコメントをもらうことになるのでしょうか。

事務局（守屋課長）

そういうことになります。パブリックコメントは12月中旬から1月下旬までとなる予定です。

小倉委員

環境市民会議からの意見としてモニタリングのことがあったということですが、主な意見としてはどのようなものだったのでしょうか。

事務局（清水）

計画の進捗において実感が持てないというような意見をいくつかいただきま

して、モニタリングの取組みにつながったということです。

環境市民会議など市民とどのような連携ができるかということにつきましては、今後の課題として調整していきたいと考えています。

米沢委員

数値や表現については後日、確認させていただきたいことと、水流実態解明プロジェクトの取組みと整合が取れるよう、またさらに効果的に取組めるよう確認をさせていただきたいと思います。

小泉委員長

本日、限られた時間においてのご意見ということですが、何か気が付いたことがありましたら、後日事務局に伝えていただきまして、事務局においてもよく調整をお願いして、より良いものにしていきたいと思います。

最後に事務局から今後のスケジュールについて報告をお願いします。

事務局（清水）

本日の各委員からのご意見を踏まえまして、内容を修正したものを今月中旬をめどに各委員にお届けして内容のご確認いただき、再度ご意見をいただきながら調整し、次回は11月11日の開催を予定しておりますが、そこで審議の取りまとめを行って、環境審議会への報告の内容を整理していきたいと考えています。以上です。

小泉委員長

それでは、第1回環境審議会専門委員会を閉会します。

本日はありがとうございました。

午前11時30分 閉会

平成26年11月12日	署名人： 小泉 明
-------------	-----------